

第 135 回日商簿記 3 級 第 1 問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形	売	掛	金									
前	払	金	立	替	金	未	収	入	金	土		地									
建		物	備		品	買	掛		金	当	座	借	越								
支	払	手	形	前	受	金	手	形	借	入	金	備	品	減	価	償	却	累	計	額	
所	得	税	預	り	金	引	出		金	固	定	資	産	売	却	損	仕			入	
減	価	償	却	費	手	形	売	却	損	租	税	公	課				支	払	手	数	料
通	信	費			雑				益	雑							受	取	手	数	料
現	金	過	不	足		固	定	資	産	売	却	益									

1. 決算日において、現金過不足（過剰額） ¥ 24,000 の原因を改めて調査した結果、通信費 ¥ 5,600 の支払い、および手数料の受取額 ¥ 27,600 の記入漏れが判明した。なお、残りの金額は原因が不明であったので、適切な処理を行う。
2. 先日受け取った佐藤商店振出しの約束手形 ¥ 500,000 を銀行で割り引いたところ、割引料 ¥ 4,000 が差し引かれ、残額が当座預金口座に振り込まれた。
3. 不要となった備品（取得原価： ¥ 300,000 、減価償却累計額： ¥ 108,000 、記帳方法：間接法）を当期首に処分し、売却代金 ¥ 200,000 は月末に受け取ることにした。
4. 建物と土地に対する固定資産税 ¥ 640,000 の納税通知書を受け取り、第 1 期分 ¥ 160,000 を現金で納付した。このうち、事業用の割合は 80% であり、店主用の割合は 20% である。
5. 甲斐商店から商品 ¥ 900,000 を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金の残高は ¥ 750,000 であるが、取引銀行と借越限度額 ¥ 1,000,000 の当座借越契約を締結している。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金過不足	24,000	受取手数料	27,600
	通信費	5,600	雑益	2,000
2	当座預金	496,000	受取手形	500,000
	手形売却損	4,000		
3	備品減価償却累計額	108,000	備品	300,000
	未収入金	200,000	固定資産売却益	8,000
4	租税公課	128,000	現金	160,000
	引出金	32,000		
5	仕入	900,000	当座預金	750,000
			当座借越	150,000

・解説

1. 現金過不足に関する問題です。

問題文の「現金過不足（過剰額）¥ 24,000」から、帳簿残高を実際有高に合わせるために以下の仕訳を切っていたことが分かります。

☆参考・現金のズレを調整したときの仕訳

（借）現金 24,000 / （貸）現金過不足 24,000

現金過不足の仕訳を考えるさいは常に**実際有高に合わせる**のがポイントです。本問の場合、実際有高のほうが 24,000 円多い（過剰）ので、同額だけ現金の帳簿残高を増やしてズレを調整します。

上記の仕訳から、貸方に現金過不足 24,000 が計上されていることが分かるので、まず、**現金過不足の残高をゼロにする**ために同額を借方に計上します。

★ステップ 1・現金過不足の残高をゼロにする

（借）現金過不足 24,000

次に、問題文に「通信費 ¥ 5,600 の支払い、および手数料の受取額 ¥ 27,600 の記入漏れが判明」とあるので、記入漏れが判明した通信費と受取手数料をそのまま計上します。

★ステップ 2・原因が判明したものを正しく処理する

（借）現金過不足 24,000 / （貸）受取手数料 27,600

（借）通信費 5,600

最後に、貸借差額を雑損または雑益で処理します。

★ステップ3・貸借差額を雑損または雑益で処理する

(借) 現金過不足 24,000 / (貸) 受取手数料 27,600

(借) 通信費 5,600 / (貸) 雑益 2,000

現金過不足の決算整理仕訳は、上記の3ステップにあてはめて考えると分かりやすいです。

現金過不足に関する問題は、第110回の間4や第111回の間4、第115回の間1、第117回の間1、第123回の間2、第133回の間4、第142回の間5、第147回の間1、第150回の間3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 手形の割引に関する問題です。

手形は満期日に決済されますが、満期日前であっても銀行に手形を持参して一定の手数料(利息)を支払うことにより、手形を現金化することが出来ます。

手形の割引日から満期日までの利息相当分は、**手形売却損勘定で費用処理**します。

なお、利息の金額は問題文で与えられることが多いですが、第138回の間3や第145回の間3のように自分で算定する必要がある場合は、問題の指示に従って日割計算をしてください。

■仮に「手形代金が200,000円、割引日から満期日までの期間が146日、割引率が5%」の場合

$$200,000 \text{ 円} \times 5\% \times 146 \text{ 日} / 365 \text{ 日} = 4,000 \text{ 円}$$

手形の割引に関する問題は、第109回の間4や第119回の間1、第125回の間5、第128回の間1、第130回の間5、第137回の間4、第138回の間3、第141回の間1、第145回の間3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 固定資産の売却・未収入金に関する問題です。

固定資産は期首に売却する場合と、期中(または期末)に売却する場合とで処理が異なるので、まず問題がどちらに該当するのか確認しましょう。

■期首に固定資産を売却する場合

当期の**減価償却費はゼロ**なので、取得原価から期首備品減価償却累計額を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額}$$

■期中(または期末)に固定資産を売却する場合

当期の減価償却の処理に関する指示が入るので、それによって当期の減価償却費を(月割で)計算します。

そのうえで、取得原価から期首備品減価償却累計額&当期の減価償却費を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額} - \text{当期の減価償却費}$$

■本問はどっち？

問題文の「不要となった備品を当期首に処分」から**期首に売却**したことが分かります。

また、問題文の「減価償却累計額：¥ 108,000」から期首備品減価償却累計額の金額が分かるので、取得原価からこれを差し引いて売却時の帳簿価額を計算します。

取得原価 300,000 円－期首備品減価償却累計額 108,000 円＝売却時の帳簿価額 192,000 円

最後に、売却時の帳簿価額と売却価額との差額で売却損益を計算します。売却価額 200,000 円は商品売買以外の取引で発生した債権なので、売掛金ではなく未収入金で処理します。

- ・売却時の帳簿価額＝192,000 円
- ・売却価額＝200,000 円
- ・差額＝8,000 円（帳簿価額＜売却価額…**売却益**）

★解答仕訳

(借) 備品減価償却累計額	108,000	／	(貸) 備	品	300,000
(借) 未収入金	200,000		(貸) 固定資産売却益		8,000

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2や第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 115 回の問 4、第 119 回の問 5、第 120 回の問 3、第 122 回の問 5、第 132 回の問 2、第 134 回の問 1、第 136 回の問 2、第 137 回の問 3、第 138 回の問 2、第 142 回の問 1、第 146 回の問 2、第 149 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 資本の引き出し・租税公課に関する問題です。

納付した固定資産税 160,000 円に関しては営業用（事業用）と店主用の 2 つに分けたうえで、前者を**租税公課**で費用処理し、後者を**資本の引き出し**として処理します。

なお、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に引出金がある（資本金がない）ので、資本の引き出しに関する仕訳は**引出金**で処理します。

- ・80%は事業用 → 128,000 円（＝160,000 円×80%）は**租税公課**で費用処理
- ・20%は店主用 → 32,000 円（＝160,000 円×20%）は**引出金**で処理

資本の引き出しに関する問題は第 102 回の問 3や第 106 回の問 4、第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 126 回の問 5、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 136 回の問 1、第 139 回の問 4、第 145 回の問 1、第 147 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

租税公課に関する問題は第 106 回の問 4や第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 137 回の問 2、第 139 回の問 4、第 141 回の問 5、第 146 回の問 3、第 147 回の問 2、第 150 回の問 5でも出題されているので、こちらもあわせてご確認ください。

5. 仕入取引・当座取引に関する問題です。

当座取引の処理に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と、【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つがありますが、簿記 3 級の頻出論点なので、どちらの処理も必ず押さえておきましょう。

本問は、問題文に列挙されている勘定科目に**当座預金勘定・当座借越勘定がある（当座勘定がない）**ので、当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制を採用していると判断します。

#### ■当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制（解答）

当座を増加させるような取引（商品の売上や有価証券の売却など）の場合は、まず当座借越があるか確認します。当座借越がある場合それを相殺したうえで残りを当座預金勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（商品の仕入や有価証券の購入など）の場合は、まず当座預金の残高があるか確認します。当座預金の残高がある場合はそれをゼロになるまで減額したうえで残りを当座借越勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

本問は、問題文に「**当座預金の残高は ¥ 750,000 である**」とあるので、まずは当座預金勘定を減額し、それでも足りない 150,000 円（=900,000 円 - 750,000 円）を当座借越勘定で処理します。

#### ★解答仕訳

(借) 仕入 900,000 / (貸) 当座預金 750,000  
(貸) 当座借越 150,000

#### ■当座勘定のみを使う 1 勘定制（参考）

参考までに、当座勘定のみを使う 1 勘定制を採用している場合の仕訳も押さえておきましょう。当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って処理するだけなのでとても簡単です。

#### ☆参考仕訳

(借) 仕入 900,000 / (貸) 当座 900,000

当座取引に関する問題は、第 100 回の問 2 や 第 103 回の問 5、第 104 回の問 2、第 105 回の問 1、第 114 回の問 5、第 121 回の問 5、第 122 回の問 2、第 125 回の問 5、第 129 回の問 1、第 133 回の問 1、第 134 回の問 3、第 136 回の問 5、第 137 回の問 1 でも出題されているので、あわせてご確認ください。